

学園テーマ「東海医療学園のブランド力を高める！」

重点目標

- I. 魅力ある学校づくりの推進（教育力向上、学生指導、卒業教育、職業教育、教育環境整備、学生生活支援）
- II. 地域に貢献し、愛される学園を目指す（施術所経営、地域スポーツ、介護予防）
- III. 学園の運営基盤を強化する（学校管理運営）

評価 A：たいへんよい B：まあまあよい C：あまりよくない D：全然よくない

領域	具体的な取り組み	評価の指標	評価	成果と課題	次年度の取り組み	学校関係者評価	
教 育 力 向 上	教育理念・教育方針の周知	教育理念・方針について教職員が理解し、また学生に周知されているか	A	教職員には、年度初めの全体会議および教育マニュアルにて周知、学生には学生便覧、シラバス等により周知した。	引き続き教職員には年度初めの全体会議にて、学生にはオリエンテーション等において、学生便覧やシラバス等を用いて周知するよう努める。	A	学生ならびに教職員への周知、さらには外に向けての発信にも努めて欲しい。
	教育目標の設定	学習者や社会のニーズに応じた教育目標が設定されているか	A	養成施設認定規則及び同指導要領、教育ガイドライン等に基づき教育目標を検討、その到達度から概ね妥当な教育目標が設定されているものとする。	職業教育の基本である職業観や態度教育に力を入れていく必要がある。教育課程編成委員会等において十分な検討を行う。	A	大変重要な課題なので、引き続き社会のニーズの変化を的確に捉え、時代に即した目標設定に努めて欲しい。
	適正な教員の配置	教育目標の達成に向けて、適正な教員を適正数配置しているか	B	法令に基づいた教員資格を有する専任教員を適正に配置し、その他、各科目について教授するに相応しい講師を配置している。日々変化する教育現場に対応するために教員の適正配置を保持する必要がある。	多様化する学校業務に対応するために、法令を遵守しつつ、専任・非常勤のバランスを考慮に入れ十分な教員数を確保する必要がある。	B	多様化する業務に適応できる教員数を確保するとともに、教員一人ひとりの負担が過剰にならないよう配慮すべきである。
	分かりやすい授業に向けての取り組み	授業の自己点検、授業研究、互見授業などが実施されているか	B	今年度も校長による授業参観が行われ、各教員にフィードバックが行われた。各教員の自己点検評価、学生による授業評価を実施したことで授業の更なる改善につながった。	各教員、学生による授業評価や互見授業、授業研究により、授業の改善向上に取り組む。	A	個々の教員が学生による授業評価、校長による授業参観など、授業の向上にむけた取り組みを評価する。
	適切な成績評価	試験等の適切な測定により、適正な評価が行われているか	A	卒業試験等においては難易度、必要度の面から十分吟味した問題によって実施した。知識を問う試験については妥当性・信頼性ともに確保できているが、技能や態度を問う測定についても質を高めていく必要がある。	ブループリントの作成、作問チェックマニュアルを活用し、試験問題の妥当性・信頼性等について教務課長が確認する。実技試験においても同様に行う。	A	適正な評価を継続し、受験者の信頼を確保することを期待する。技能や態度についても信頼性や客観性の高い試験による評価に努めて欲しい。

教 育 力 向 上	技能教育の充実向上	基本的技能を身につけるための実習プログラムが設定されているか	B	模擬臨床では3年生が施術者、2年生が患者役を担い、リアルな臨床体験を実施。教員によるフィードバックにより、技能向上へのアドバイスを行った。	今後は開業施術者等と密接に連携し、実践的な実習・演習に取り組む。附属臨床実習施設における実習プログラムの充実を図る。	B	手技の技能向上に向けた更なる努力を期待する。また、実践的な技能教育への取り組みも期待する。
	ファカルティ デベロップメント	校内・外の研修会、学会等に参加し、研鑽に努めているか	A	東洋療法学校協会教員研修会、全日本鍼灸学会、現代鍼灸臨床研究会、日本鍼灸手技療法教育研究会等への参加、校内研修の実施により、教員の資質向上に努めた。	職業実践専門課程認定の要件である、企業や職能団体との連携による教員研修を実施し、教育力の向上に努める。	A	積極的に取り組んでいることを評価する。教育の向上は教員のレベルアップが必要不可欠なので、さらなる研鑽に努めて欲しい。
	学習の支援	学習支援を必要とする学生に対するサポートは十分に出来ているか	B	学習支援を要すると判断した学生には、放課後や夏休み期間等を利用し、補習授業等に努めた。	早期に支援を要する学生の把握に努めるとともに、学生とのコミュニケーションを図りつつ学校全体で支援する。	B	取り組みには一定の評価をするが、次の評価項目とともに結果を求めたい。
	資格試験合格率の向上	国家試験の合格率 100%達成に向けて十分な取り組みを実施したか	C	第22回国家試験の合格率は、あん摩マッサージ指圧師85.3%、はり師83.8%、きゅう師83.8%であった。目標の100%達成には及ばなかったが、課外による試験対策、模擬試験実施などにより目標達成に努めた。	目標達成に向け、問題点・改善点を明確にし、計画を立て遂行、評価を行う。教員、学生ともに高い意識のもとに目標達成に励む。	C	目標達成に向けて、学生と教職員とが共に努力することを望む。
	退学率の低減	中途退学防止への取組み	C	昨年に続き、志願者に対してはミスマッチを防ぐため、オープンキャンパス等において、本校の概要、業界や仕事の内容についての説明し、目的の明確な学生の募集に努めた。また、退学希望者には保護者とともに面談を行い、中途退学防止に努めたが退学者4名を出すに至った。主な理由は、「進路変更」「留年」によるものであった。	ミスマッチの防止に努める。入学後は授業を通じて、仕事のやりがいや楽しさを知ってもらい、資格取得への意欲を高める。学生との面談を継続して問題の把握に努める。スクールカウンセラーや保護者とのコミュニケーションを図る。学生の状況について教員間で情報の共有に努める。	B	学習者に対し、目標達成の喜びを感じさせるような指導を期待する。課題解決に向け、PDCAサイクルによる計画と実行、評価を確実に実行していくことを望む。
卒 後 教 育	卒後教育の実施	卒業生のニーズ、社会のニーズに応じた卒後研修が行われているか	B	附帯教育である「臨床専攻コース」には4名が受講、研修を修了した。また昨年度は、「卒後臨床研修」を5回実施し卒後のキャリアアップを支援した。 ハワイ解剖研修旅行を実施。卒業生も参加し、プロフェッショナルリズムの向上を図った。	本年も卒後臨床研修のプログラムをより充実させて実施する。臨床専攻コース修了者で希望する者には、附属臨床センターでの臨床機会を与える。 ハワイ解剖研修旅行を9月に実施する。	B	学園として様々な学びの場を提供していることは評価できる。今後は、さらに多くの卒業生が参加するよう期待する。

学 生 指 導	マナー、態度教育の 充実	倫理やマナーについて教育する カリキュラムが設けられ、適切 な指導が行われているか	B	日頃から積極的な挨拶、授業開始・終了時の礼、 実習時のマナー、言葉遣い、身だしなみや態度 などについて適切に指導した。教室の整理整 頓、喫煙についての指導が必要である。	職業人として最も基本的な態度教育、 倫理教育について、教職員研修をも実 施し、学生への指導向上に努める。	B	職業教育において最も基本的かつ重要 な部分である。さらに指導に努めるこ とを望む。
	生活習慣に関する指導	日頃の生活習慣、欠席・遅刻な どに対する指導が徹底されてい るか	B	各クラス担任より個人指導がなされており、や むを得ない理由による遅刻・欠席に対する届 出の徹底、無断欠席への指導等に努めた。	適正な生活習慣を送ることができるよ うにするためには、家庭での指導も大 切な要素となるため、保護者との 連絡をより密にし、指導するよう努め る。	B	上記と同様、職業人の態度や習慣につ ながることになるので、しっかりと指 導することを望む。
	学習モチベーション向 上	学生のモチベーションを高める ための具体的な取組みがなされ ているか	A	クラス担任による二者面談、科目担当教員との コミュニケーションなど、学生に対する積極的 な声かけに努めた。	職業体験や OB との交流などを通じ て、学びのモチベーション向上に努め る。	B	職業体験や先輩などとの交流は大切な 試みであると思う。積極的な取組み を期待する。
職 業 教 育	職場体験等の実施	職場体験や就業体験等活動の機 会を設けているか	B	夏休みを利用し、外部の治療院にて学生が患者 として施術を受ける機会を設けた。 受療体験によって、学習への取り組みに変化が みられた。特に臨床実習では自己学習に取り組 むなど積極性がみられるようになった。	引き続き夏休みを利用して、受療体験 を実施する。職業教育機関として、幅 広い職業体験の実施を検討する。	B	卒業後の夢を描く有意義な取り組みで あると評価する。体験で得られる気づ きは大切なので、さらに充実させるよ う期待する。
教 育 環 境 整 備	施設・設備の充実	施設設備の安全管理、教育に対 応した整備に努めているか	A	本校舎に正対して実習棟（第2校舎）を建設。 実技実習室、基礎医学実習室を拡充、臨床実習 室、トレーニングルーム、多目的教室等を設置 し、教育環境の向上に努めた。本校舎のロッカ ールームを拡張し、生活環境の向上を図った。	実習棟（第2校舎）の安全かつ合理的 な使用方法について周知徹底を図る。 さらに万全なセキュリティ対策を講じ る。	A	学園の方針に基づき、実習棟建設など 施設設備の拡充を計画的に進めたこと を大いに評価する。
	教材・教具等の充実	学習に必要な教材・教具・図書 等の整備に努めているか	A	実習棟建設に伴い、実習用ベッド、ワゴン、机、 椅子、解剖模型等を新しく購入した。	実習用具、視聴覚教材、解剖模型、専 門図書等必要に応じて充実を図る。	A	上記と同じ
学 生 支 援	進路相談・指導の充実	進路相談・指導の機会を十分に 設け、学生および求人先のニー ズに答えているか	B	11月に就職ガイダンスを開催し、42社の参加 があった。求人件数は234件で昨年とほぼ同数 であった。個別に相談がある学生については、 担任が進路担当者と連絡を取り合い対応して いる。	履歴書の書き方、マナーに関するレク チャーを実施する。 本年も就職ガイダンスを実施するが、 開催時期および頻度について検討す る。相談し易い環境整備に努める。	B	今後も学生から相談しやすい環境づく りと、求人先のニーズへの対応に努め て欲しい。

学 生 支 援	学校行事・課外活動	学園生活を有意義なものにするための学校行事や課外活動が適切に実施されているか	B	校外実習、球技大会、ゼミ等の実施により、学生間や学生と教員間のコミュニケーションが図られた。また、学園祭では学生によるボランティア実施が行われ、日頃の練習成果を発揮する機会となり、奉仕の精神の発揚、市民との交流を図ることができた。	学生同士あるいは教職員と親睦をはかり、有意義な学園生活を送ることができるよう、前年度の反省を踏まえて、より良い学校行事とするよう努力する。	B	学生と教職員との親睦は信頼関係を築く上で重要であるので、学校行事が活発に行われるよう望む。
	健康管理の実施	定期健診や疾病予防教育、健康相談など、学生の健康管理に努めているか	A	学校保健安全法に基づき、5月に学生および教職員の健康診断を実施した。インフルエンザ等感染症予防の衛生教育、カウンセリング等に努めた。	引き続き健康管理に努めるとともに、適度な運動等、健康増進やストレス対策に努める。トレーニングルームの学生利用を推進する。	A	十分な取り組みと評価するが、充実したトレーニングルームなどの有効利用を期待する。
	生活支援相談の充実	奨学金や教育ローン、その他生活に関する相談に対応しているか	B	日本学生支援機構奨学金については希望者全員が貸与することができた。教育ローンについては随時、相談者があった場合に対応した。本校校友会奨学金については2名が給付を受けた。	奨学金、国の教育ローンだけでなく、銀行等の教育クレジットローンについても紹介できるよう努める。校友会奨学金の充実を図る。	B	支援を求める学生に対し、できうる限りの支援を期待する。
地 域 貢 献	施術所経営	地域住民の保健衛生の向上に貢献しているか	A	施術所の運営を通じて、市民の保健衛生の向上に寄与することができた。実習棟建設に伴い、施術所も新規開設することができた。	引き続き患者満足度の向上に努め、市民の保健医療に貢献すべく、移転開設した施術所経営の充実を図る。	A	地域住民の保健医療のニーズに十分応えているものと評価する。新たな施術所の貢献を期待する。
	地域スポーツへの貢献	地域のスポーツ振興に貢献しているか	A	本校教員・アスレティックトレーナーの活動により、多くの地域スポーツを支援することができた。本校教員、学生が熱海市代表として「静岡県市町駅伝大会」に参加した。	本校の専門性を活かし、地域スポーツの振興に寄与するとともに、教育に反映させる。	A	教職員、学生の姿勢や態度が地域住民に伝わっていることが伺える。継続して貢献することを望む。
	介護予防に関する取り組み	高齢者の介護予防に貢献しているか	A	熱海市の地域支援事業である介護予防を目的に、伊豆山・泉地区において、本校教員・卒業生が「筋力アップ教室」を担当し貢献した。	引き続き地域の特定高齢者に対する介護予防の筋力アップ教室を担当するとともに、地域の一次予防事業のセルフマッサージ教室を担当する。	A	高齢化率の高い熱海市において重要な役割を担っていることを評価する。継続して寄与することを望む。
	校務分掌	校務分掌が明確にされ、教職員がよく理解しているか	B	校務分掌が示され、各教職員が個々の役割を概ね果たすことができた。より詳細な校務分掌を作成し明確さを図る必要がある。	教職員の校務分掌の明確化と理解に努めるとともに、業務内容の理解と業務遂行の効率化を図る。	B	教職員がコミュニケーションを図り、互いに協力して業務を遂行することを望む。

学	諸会議の実施	会議が円滑に運営され、コミュニケーションが十分図られているか	B	定例の教育会議、実習指導者会議、学校運営会議等を開催し、課題の共通認識や解決に向けた協議を行うことができたが、時に周知がなされていないことや齟齬が生じる場面があった。	会議を円滑に有意義にするために時間、議題、会議方法について見直し、より効率的な会議にするよう努める。教職員同士のコミュニケーション向上に努める。	B	効率的で有意義な会議に努めることを望む。
	校	広報活動	費用対効果に見合った適切な広報活動行われ、学園の情報が十分発信されているか	B	オープンキャンパスは6回実施、参加者は前年度を上回った。昼間仕事で来校できない人のために夜間にも3回実施した。また進路ガイダンスに参加、個別に説明を行った。HPのブログ、facebookにより、学内外活動や卒業生の状況などタイムリーに掲載した。テレビ、ラジオ、新聞等のメディアを活用した広報活動も行った。	今年はホームページのリニューアルを行い、さらに分かりやすく学校の情報を伝えていく。また、オープンキャンパスなどの機会を通じ、鍼灸マッサージ師、トレーナーの仕事について理解を深めてもらえるよう努める。	B
管	学校評価	自己点検評価が適切に行われ、その結果が公表されているか	A	学校の自己点検評価の結果をもとに学校関係者評価を実施。その結果を学校ホームページに掲載した。	単に評価に終わることなく、PDCAサイクルによる改善向上に努める。	B	学校関係者評価が活かされるよう望む。
理	運	危機管理体制が明確にされ、マニュアル、緊急用備品などが整備されているか	C	危機管理マニュアルの見直し、危機管理体制の確認はできたが、マニュアルの周知徹底が不十分であった。緊急用備品としては、保存水、非常食は人数分常備しているが、毛布等防寒用具の整備が必要である。 学生生徒災害傷害保険、臨床実習賠償責任保険、疾病補償型学生新補償制度などの保険に加入、事故・傷害等に備えている。	危機管理マニュアル、危機管理体制の周知徹底をし、緊急用備品の追加・補充に努める。	C	計画的な整備を求めたい。被災後のBCP計画の作成も進めるよう望む。
営	防災対策	定期的に避難訓練等が実施されているか	B	学生および教職員が参加しての避難訓練を実施した。	東南海地震などを想定し、避難誘導等のシミュレーションを確認する必要がある。	C	被害想定を相模トラフ沿いに発生する地震に変更して検討する必要がある。
	労務管理	労働関係法令に基づき、就業規則等が適宜見直され整備されており、職員の健康管理が適切に行われているか	B	社会保険労務士から、適宜必要な情報や助言を受けながら見直しを行っている。 職場のメンタルヘルスの講習会に参加し、健康管理のポイントについて認識を深めた。	身体面および精神面の健康管理、労務管理に努める。	B	職員の健康管理に努め、良好な職場環境の構築に努めるよう望む。

学校 管理 運営	予算編成および執行	予算の編成および予算の執行が適正に行われているか	B	新実習棟の建設、施設設備の充実のため、大規模な予算編成を行うも、概ね計画通りの予算執行となったが、執行管理を高める必要がある。	予算の執行管理を一定の間隔で行い、予算超過のないよう管理に努める。	B	中長期にわたる財政計画を策定し、適切な予算編成および執行を望む。
	財務状況の分析	財務諸表に基づき分析が行われ、健全な財政状況を保持しているか	B	貸借対照表関係、消費収支計算書等により財務比率を算出し、分析している。財務基盤の自己評価をもとに具体的な改善策を検討する必要がある。	分析だけに終わるのではなく、具体的にどうするか、目標、計画に反映させるよう努める。	B	適切な財務分析により、健全な学校運営ができるよう努めて欲しい。
	情報公開	財務状況に関する資料を公表しているか	B	学校のホームページ上に掲載し公開を行った。	ホームページのみならず他の媒体（校友会報等）への公開を検討する。	B	ホームページに掲載し、公開していることを評価する。

平成26年5月19日

東海医療学園専門学校 学校評価委員会（自己点検評価）

学校関係者評価委員会（学校関係者評価）

委員長 羽鳥 龍行（東海医療学園校友会会長）

委員 木内 実（公益社団法人静岡県鍼灸師会会長）

〃 斉藤恭二郎（公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会会長）

〃 鈴木 秀旺（熱海市連合町内会長）

〃 田中 博（NPO 法人熱海市体育協会事務局長）

〃 矢田 真樹（静岡県鍼灸学術研究会会長）